



## あかんことはあかんです

江戸時代の会津藩(今の福島県を中心にした地方)では、6歳から9歳までの会津藩士の男の子どもたちが、「什」と呼ばれる集まりを作っていました。そこには、藩校である日新館に通うための心構えである「什の掟」という約束事がありました。

- 一、年長者(年上の人)の言うことに背いてはなりません
- 一、年長者にはお辞儀(あいさつ)をしなければなりません
- 一、嘘を言うことはなりません
- 一、卑怯な振る舞いをしてはなりません
- 一、弱い者をいじめてはなりません ※一部かな遣いを現代表記にしました。



などがあり、最後には「ならぬことはならぬものです」(きまりは絶対に守るものです)と、厳しい口調で戒めています。

掟は他にもありますが、今とは時代が違うので、そのまま当てはまらないものもあります。しかし、上にあげたものは、ごく当たり前の事を言っているように思えます。そして、最後の「ならぬことはならぬものです」という毅然とした態度には、強いメッセージを感じます。

では、この「什の掟」を大阪弁で言い換えて、天王寺小学校版を作ってみたら、次のような感じになるでしょうか。



- 一、学校と学園の先生やお家の人との約束は守らなあきません
- 一、きちんとあいさつせなあきません
- 一、嘘は言うたらあきません
- 一、ずるいことをしたらあきません
- 一、いじめをしたらあきません

そして、結びの言葉は「あかんことはあかんです」としてみます。

天王寺小学校では、今年度「150年の歴史を踏まえ、あたりまえの事をきちんと積み重ねる中で進化し続ける学校を目指す」という基本方針を掲げて教育活動をすすめているのですが、これらのこともすべて当たり前のうちに入るのではないのでしょうか。

しかし、ここでちょっと気になるデータがあります。昨年12月に実施した大阪市学力経年調査(3年生以上)の質問紙調査で、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。」という質問がありました。その問いに、本校では、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせて肯定的に答えた児童の割合は、全体で96.3%でした。全員が肯定的に答えてはいませんが、気になる

のは、そこではありません。もちろん「そう思わない」と答える子がいることは残念ですが、100人いれば、天邪鬼<sup>あまのじゃく</sup>が数人いることは珍しくありませんので、あまり気にはしていません。むしろ私が気になったのは、96.3%の内訳です。このうち最も積極的な「そう思う」と答えた児童の割合は、76.3%で、次に肯定的な「ややそう思う」が20%という結果でしたが、実は、この「やや」がくせ者なのです。

言い換えてみるとよくわかります。本校では、8割近くの子どもは、「いじめは絶対にダメ!」と思っているのですが、2割の子どもは、「いじめはいけないことだが、絶対ではなく理由があれば、ちょっとくらいは仕方ないところがある」と思っていることになります。何だか、いじめをした時の言い訳を聞いているような感じがして、これではいじめがなくなるはずはありません。

もっとも天小の子どもたちのことですから、中には強く言うことに照れを感じて「やや」とトーンを落とした子がいるかもしれません。しかし、こと「いじめ」に関しては、それは間違いです。いじめが絶対にダメだということに、理由もへったくれもありません。あかんことはあかんのです。

「什の掟」とは少し意味が違ってしまいましたが、「あかんことはあかん」という言葉も、とても当たり前です。「したらあかんことはしたらあかん」逆に「せなあかんことはせなあかん」。そうしたあかん事をあかんと言えるような正しさと強さを、天王寺小学校の子どもたちには、もってほしいと思っています。

でも、時にはできない事もあるでしょう。「什の掟」には、それを破ると仕置きがあったと言いますが、学校に罰はありません。その代わり、先生たちが、とことんその子と向き合いながら、導き支えます。何故それがあかんのか、あかんとわかっていてもそうしてしまうのはどうしてかを一緒に考えて解決していきます。そして、その過程で子どもたちが成長すると信じています。

大阪市では、毎年5月の大型連休明けの月曜日を「いじめ(命)について考える日」としており、今月13日(月)がそれにあたります。安全で安心な学校は、大人だけが作るものではありません。子どもたち自身もその担い手であることをしっかり自覚させながら、ともに作っていきたいと思っています。

## 一部校舎の建て替えが決まりました

本校の管理棟(正面玄関や職員室などのある棟です。)は、昭和43年の建築で、老朽化により耐用期限を迎えたことから、建て替え工事を行うことが決まりました。現在の計画では、令和8年に運動場に仮設校舎を建築し、翌年から工事が始まり、令和12年から新校舎使用開始の予定です。まだ少し先の話ですが、今後も詳細が決まり次第、お知らせしていきます。

